

てがぬましゅうへん  
手賀沼周辺のデジタル野鳥図鑑  
やちょうずかん

あびこやちょうをまもるかい へん  
我孫子野鳥を守る会編

# この<sup>ずかん</sup>図鑑<sup>みかた</sup>の見方

<sup>ばんごう</sup> No.番号 <sup>なまえ</sup> 鳥の名前

<sup>か</sup> <sup>なまえ</sup>  
(科の名前)

<sup>ぜんちょう</sup> <sup>しめ</sup>  
大きさ:全長を示しています。

<sup>ばあい</sup>  
春~夏の場合

<sup>ばあい</sup>  
秋~冬の場合

<sup>ばあい</sup>  
一年中の場合

色分け

<sup>ごろ</sup> <sup>ばあい</sup>  
いつ頃見られるか:(色は一年中の場合)  
<sup>じき</sup> <sup>しめ</sup>  
見られる時期を示しています。

<sup>しゃしん</sup>  
その鳥の写真です。

どこで見られるか:  
<sup>しめ</sup>  
よく見られる所を示しています。

<sup>すがた</sup> <sup>かたち</sup>  
どんな姿、形か:  
<sup>すがた</sup> <sup>かたち</sup> <sup>とく</sup> <sup>しめ</sup>  
姿や形の特ちょうを示しています。

<sup>しめ</sup>  
鳴き声:どんな鳴き声かを示しています。

<sup>た</sup>  
その他:  
<sup>おもしろ</sup> <sup>しめ</sup>  
そのほかの面白いことを示しています。

# ことば い かた せつめい 言葉（言い方）の説明（1）

ぜんちょう おばね はし  
全長：くちばしの先から尾羽の端までの長さをいいます。

か からだ とく あつ い かた  
科：体の特ちょうがにている鳥の集まりの言い方です。

りゅうちょう  
留鳥：一年を通して見られる鳥のことをいいます。

なつどり と たまご うこそだ  
夏鳥：春に南の方から日本に飛んできて、日本で卵を産んで子育てし、

秋のはじめには南の方にわたって冬を過ごす鳥のことをいいます。

ふゆどり と す  
冬鳥：秋に北の方から日本に飛んできて、冬を過ごし、

春になると北の方にかえり、子育てする鳥のことをいいます。

しっち しめ とち みずべ だいち かこ とち  
湿地：湿っぽい水がたまりやすい土地で、水辺や台地に囲まれた低い土地に

よく見られます。ヨシやガマなどのみずけこのしょくぶつ  
水気を好む植物がよく見られます。

じょうめん とり せなか つばさ うえがわ おも はね いろ もよう せつめい つか  
上面：鳥の背中と翼の上側をいい、主に羽の色や模様の説明に使います。

かめん とり おね はら つばさ したがわ おも はね いろ もよう せつめい つか  
下面：鳥の胸から腹と翼の下側をいい、主に羽の色や模様  
の説明に使います。

ことば い かた せつめい  
言葉（言い方）の説明（2）

かっしょく ちゃいろ ことば  
褐色：こげ茶色のことで、黒っぽいと黒褐色、明るい茶褐色などといいます。

じゅうはん からだ はね つばさ たて こっかしよく てん せん もよう  
縦班：体や羽・翼にある縦がたの黒や黒褐色のはん点や線のような模様です。

おうはん からだ はね つばさ よこ こっかしよく てん せん もよう  
横班：体や羽・翼にある横がたの黒や黒褐色のはん点や線のような模様です。

びはん まゆげ  
眉班：目の上にある眉毛のような白っぽい模様。

さえずり しそん のこ いっしょ たまご う そだ  
さえずり：オスとメスが子孫を残すために一緒になり、卵を産んで子どもを育てます。

はるさき いっしょ な かた うつく  
春先から夏に、オスとメスが一緒になるときのオスの鳴き方で、とても美しい

な かた じぶん なわば す えさ こそだ  
鳴き方が多いです。また、自分の縄張り（巣をつくり、餌をとったり子育てを

ばしょ まも な かた  
する場所）を守るためにもこの鳴き方をします。

ぢな いかい な かた き  
地鳴き：さえずり以外の鳴き方で、秋から冬によく聞かれます。

はんしょくき しそん のこ いっしょ たまご う こそだ じき  
繁殖期：オスとメスが子孫を残すために一緒になり、卵を産んで子育てする時期の


ふつう はるさき じき  
ことをいいます。普通は、春先から夏ころの時期になります。

こんいんしょくき はんしょくき くちばし あし いろ か いろ  
婚姻色：繁殖期のはじめに嘴や足などの色が変換することがあり、その色をいいます。

この図鑑（ずかん）で紹介（しょうかい）している鳥  
次のページで鳥の名前を検索（けんさく）することができます。

No.	鳥の名前	科（か）	ページ	No.	鳥の名前	科（か）	ページ	No.	鳥の名前	科（か）	ページ	No.	鳥の名前	科（か）	ページ
1	アオサギ	サギ	7	17	カワラヒワ	アトリ	23	33	ダイサギ	サギ	39	49	バン	クイナ	55
2	アオジ	ホオジロ	8	18	カンムリカイツブリ	カイツブリ	24	34	タゲリ	チドリ	40	50	ヒドリガモ	カモ	56
3	ウグイス	ウグイス	9	19	キジ	キジ	25	35	タシギ	シギ	41	51	ヒバリ	ヒバリ	57
4	エナガ	エナガ	10	20	キジバト	ハト	26	36	タヒバリ	セキレイ	42	52	ヒヨドリ	ヒヨドリ	58
5	オオジュリン	ホオジロ	11	21	コガモ	カモ	27	37	チュウサギ	サギ	43	53	ホオジロ	ホオジロ	59
6	オオタカ	タカ	12	22	コゲラ	キツツキ	28	38	チョウゲンボウ	ハヤブサ	44	54	ホシハジロ	カモ	60
7	オオバン	クイナ	13	23	コサギ	サギ	29	39	ツグミ	ヒタキ	45	55	ホトトギス	カッコウ	61
8	オオヨシキリ	ヨシキリ	14	24	コチドリ	チドリ	30	40	ツツドリ	カッコウ	46	56	マガモ	カモ	62
9	オカヨシガモ	カモ	15	25	コブハクチョウ	カモ	31	41	ツバメ	ツバメ	47	57	ミコアイサ	カモ	63
10	オナガ	カラス	16	26	サシバ	タカ	32	42	ツミ	タカ	48	58	ミサゴ	ミサゴ	64
11	オナガガモ	カモ	17	27	シジュウカラ	シジュウカラ	33	43	トビ	タカ	49	59	ムクドリ	ムクドリ	65
12	カイツブリ	カイツブリ	18	28	ジョウビタキ	ヒタキ	34	44	ノスリ	タカ	50	60	メジロ	メジロ	66
13	カシラダカ	ホオジロ	19	29	スズメ	スズメ	35	45	ハクセキレイ	セキレイ	51	61	モズ	モズ	67
14	カルガモ	カモ	20	30	セグロカモメ	カモメ	36	46	ハシブトガラス	カラス	52	62	ヤマガラ	シジュウカラ	68
15	カワウ	ウ	21	31	セグロセキレイ	セキレイ	37	47	ハシボソガラス	カラス	53	63	ユリカモメ	カモメ	69
16	カワセミ	カワセミ	22	32	セッカ	セッカ	38	48	ハジロカイツブリ	カイツブリ	54	64	ルリビタキ	ヒタキ	70

## 鳥の名前の検索(けんさく)

Ctrlキーをおして鳥の名前をクリックすると、その鳥のページがでます。  
Ctrlキーをおして左下にある  マークをクリックすると、このページにもどります。

- |                          |                             |                            |                         |
|--------------------------|-----------------------------|----------------------------|-------------------------|
| ■ <a href="#">アオサギ</a>   | ■ <a href="#">カワラヒワ</a>     | ■ <a href="#">ダイサギ</a>     | ■ <a href="#">バン</a>    |
| ■ <a href="#">アオジ</a>    | ■ <a href="#">カンムリカイツブリ</a> | ■ <a href="#">タゲリ</a>      | ■ <a href="#">ヒドリガモ</a> |
| ■ <a href="#">ウグイス</a>   | ■ <a href="#">キジ</a>        | ■ <a href="#">タシギ</a>      | ■ <a href="#">ヒバリ</a>   |
| ■ <a href="#">エナガ</a>    | ■ <a href="#">キジバト</a>      | ■ <a href="#">タヒバリ</a>     | ■ <a href="#">ヒヨドリ</a>  |
| ■ <a href="#">オオジュリン</a> | ■ <a href="#">コガモ</a>       | ■ <a href="#">チュウサギ</a>    | ■ <a href="#">ホオジロ</a>  |
| ■ <a href="#">オオタカ</a>   | ■ <a href="#">コゲラ</a>       | ■ <a href="#">チョウゲンボウ</a>  | ■ <a href="#">ホシハジロ</a> |
| ■ <a href="#">オオバン</a>   | ■ <a href="#">コサギ</a>       | ■ <a href="#">ツグミ</a>      | ■ <a href="#">ホトトギス</a> |
| ■ <a href="#">オオヨシキリ</a> | ■ <a href="#">コチドリ</a>      | ■ <a href="#">ツツドリ</a>     | ■ <a href="#">マガモ</a>   |
| ■ <a href="#">オカヨシガモ</a> | ■ <a href="#">コブハクチョウ</a>   | ■ <a href="#">ツバメ</a>      | ■ <a href="#">ミコアイサ</a> |
| ■ <a href="#">オナガ</a>    | ■ <a href="#">サシバ</a>       | ■ <a href="#">ツミ</a>       | ■ <a href="#">ミサゴ</a>   |
| ■ <a href="#">オナガガモ</a>  | ■ <a href="#">シジュウカラ</a>    | ■ <a href="#">トビ</a>       | ■ <a href="#">ムクドリ</a>  |
| ■ <a href="#">カイツブリ</a>  | ■ <a href="#">ジョウビタキ</a>    | ■ <a href="#">ノスリ</a>      | ■ <a href="#">メジロ</a>   |
| ■ <a href="#">カシラダカ</a>  | ■ <a href="#">スズメ</a>       | ■ <a href="#">ハクセキレイ</a>   | ■ <a href="#">モズ</a>    |
| ■ <a href="#">カルガモ</a>   | ■ <a href="#">セグロカモメ</a>    | ■ <a href="#">ハシブトガラス</a>  | ■ <a href="#">ヤマガラ</a>  |
| ■ <a href="#">カワウ</a>    | ■ <a href="#">セグロセキレイ</a>   | ■ <a href="#">ハシボソガラス</a>  | ■ <a href="#">ユリカモメ</a> |
| ■ <a href="#">カワセミ</a>   | ■ <a href="#">セッカ</a>       | ■ <a href="#">ハジロカイツブリ</a> | ■ <a href="#">ルリビタキ</a> |

No.1 アオサギ

(サギ科)

大きさ: 90~98cm



いつ頃見られるか:  
一年を通して見られる。

どこで見られるか:  
てがぬま てががわ みずべ  
手賀沼や手賀川の岸の水辺、田んぼ、  
のうすいろ  
農水路などでよく見られる。

すがた かたち にほん いちばん  
どんな姿、形か:日本で一番大きなサギ  
あたま うし かんむり うもう くび  
で、頭の後ろに黒い冠のような羽毛、頸  
すうほん せん もよう  
に数本の黒いたて線の模様がある。

鳴き声:ゴァーとかクァツと鳴く。

た はんしょくき  
その他:繁殖期のはじめには、目の先からくちばし、  
足の色が赤くなる。(婚姻色という。)  
こんいんしょく



No.2 アオジ

(ホオジロ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約15cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:

<sup>て が ぬましゅうへん</sup>手賀沼周辺では冬鳥で、秋の終り頃から  
<sup>ごろ</sup>春の終り頃まで見られる。

<sup>て が ぬま</sup>どこで見られるか: 手賀沼のヨシ原、<sup>ゆうほ</sup>遊歩  
<sup>どう しげ</sup>道の茂みや木の上、<sup>まわ</sup>田んぼや畑、林の周り  
<sup>いろいろ ところ</sup>など、色々な所で見られる。

<sup>すがた かたち</sup>どんな姿、形か: オスは、<sup>あたま くら みどり</sup>頭が暗い緑  
<sup>せ くら かつしよく むね</sup>色、目の先が黒色、背が暗い褐色で、胸か  
<sup>はら みどり</sup>ら腹は緑がかった黄色。<sup>きいろ</sup>メスはオスよりも  
<sup>ぜんたい</sup>全体の色がうすく、<sup>きいろ</sup>黄色っぽい。

鳴き声: 秋から冬はジツと鳴く。春から夏は  
チョッピンチーチュと鳴く。





No.3 ウグイス

(ウグイス科)

大きさ: 14~15.5cm



<sup>ごろ</sup>  
いつ頃見られるか:  
一年を通して見られる。

どこで見られるか:  
<sup>て が ぬましゅうへん</sup> 手賀沼周辺では、冬は林やヨシ原、<sup>こうえん</sup> 公園の  
<sup>かきね</sup> 垣根などの<sup>しげ</sup> 茂みにかくれていて、なかなか  
<sup>すがた</sup> 姿を見ることができない。夏は木の上で鳴  
くこともある。

<sup>すがた かたち</sup>  
どんな姿、形か:  
身体の色は地味な<sup>じ み</sup>うす茶色で、<sup>びはん</sup>眉班(目の  
上の<sup>まゆげ</sup>眉毛のような<sup>せん</sup>白っぽい線)がある。

<sup>はるさき</sup>  
鳴き声: 春先から夏にはホーホケキョと鳴き、  
秋から冬にはチャツ、チャツと鳴く。



No.4 エナガ

(エナガ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約14cm (<sup>お</sup>尾の長さ8cm)



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:

一年を通して見られる。

どこで見られるか:

<sup>て</sup>手賀沼周<sup>がぬましゅうへん</sup>辺では、<sup>ゆうほどう</sup>遊歩道や<sup>こうえん</sup>ヨシ原、公園  
の林などでよく見られる。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>からだ</sup>身体は小さく<sup>お</sup>尾がとても長い。くちばしが小さく、頭は白くて目の上に黒い線がある。

<sup>た</sup>その他: 秋から冬の間はシジュウカラやメジロなどが<sup>ま</sup>混じる<sup>む</sup>群れていることが多い。

鳴き声: チーチーチリリ、ジュリジュリジュリなどと鳴く。



No.5 オオジュリン

(ホオジロ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約17cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: <sup>て が ぬましゅうへん</sup>手賀沼周辺では <sup>ふゆどり</sup>冬鳥  
で、秋の終りから <sup>はるさき</sup>春先まで見られる。

どこで見られるか: ヨシ原などでよく見られ  
る。秋は見つけにくいだが、1月頃になると、  
<sup>ごろ</sup>ヨシの上に上がって見やすくなる。

<sup>すがた かたち</sup>どんな姿、形か: オスは <sup>あたま</sup>頭が <sup>あかちやいろ</sup>赤茶色、  
<sup>じょうめん</sup>上面は <sup>ちやいろ</sup>うす茶色に <sup>かつしよく</sup>褐色の <sup>じゅうはん</sup>縦班があり、  
<sup>かめん</sup>下面は白っぽい。メスは全体に色がうすい。

<sup>た</sup>その他: ヨシの <sup>くき</sup>茎に止まり、<sup>くき</sup>茎を <sup>くき</sup>くちばしで  
<sup>つ</sup>突っついて <sup>こんちゅうらい</sup>中にいる昆虫類を食べる。

鳴き声: チュリーンなどと鳴く。



No.6 オオタカ

(タカ科)

大きさ: オス約50、メス約57 cm



いつ頃見られるか: 一年を通して見られるが、なかなか見ることができない。

どこで見られるか: 注意して探すと、上空を飛ぶ姿や手賀沼の杭上などで見られることがある。

どんな姿、形か: 翼は幅広く尾羽が長い。尾羽には4本の黒い横帯(帯のような太い模様)がある。体の上面は青っぽい灰色で、下面は白く黒褐色の細い横斑がある。目の周りから首の後まで黒い太い線があり眉班は白い。

鳴き声: キイキイキイ、ケーケーケーなどと鳴く。



No.7 オオバン

(クイナ科)

大きさ: 36~39 cm



いつ頃見られるか: 一年を通して見られる。  
冬には北から渡ってくるもので夏より数が  
増え、大群が見られることがある。

どこで見られるか: 水草の多い沼や池にす  
んで、春には手賀沼でも卵を産んで子育て  
をする。5~6月頃にはヒナをつれた親鳥を  
見ることがある。

どんな姿、形か: 全身黒色で、白い額板  
(額にある板のような羽が生えていない  
部分)があり、くちばしも白い。

その他: 我孫子市の鳥に指定されている。

鳴き声: キョン、キョンと高い声で鳴く。



No.8 オオヨシキリ

(ヨシキリ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約18.5cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:夏鳥で、4月から9月  
<sup>ころ</sup>頃に見られる。

どこで見られるか:夏の初め頃<sup>ごろ</sup>(5~6月)  
には、手賀沼<sup>てがぬま</sup>や農地<sup>のうち</sup>、河原<sup>かわら</sup>などのヨシ原で  
よく見られる。

どんな姿、形か:体<sup>すがた</sup>の上面<sup>かたち</sup>は黄色<sup>じょうめん</sup>っぽい  
褐色<sup>かつしょく</sup>、下面<sup>かめん</sup>は色がうすい褐色<sup>かつしょく</sup>で白い眉班<sup>びはん</sup>  
がある。

鳴き声:ギョギョシと<sup>おおごえ</sup>大声で鳴く。

<sup>ころ</sup>8月頃には鳴かなくなる。

その他:オスは、ヨシの茎<sup>た</sup>にとまり、<sup>くき</sup>橙色<sup>だいたいいろ</sup>  
の口を見せて夜も昼もさえずり<sup>つづ</sup>続ける。



No.9 オカヨシガモ

(カモ科)

大きさ: 46~58 cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:冬鳥で、秋の終わりか  
<sup>はるさき</sup>ら春先(3月はじめ頃)<sup>ごろ</sup>まで見られる。

<sup>てがぬま</sup>どこで見られるか:手賀沼の上沼、  
<sup>かみぬま</sup>  
<sup>とく</sup>特に大津川河口の近くでよく見られる。  
<sup>おおつがわかこう</sup>

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か:<sup>あたま</sup>オスは頭が<sup>かつしよく</sup>褐色で体は  
<sup>はいいろ</sup>灰色がかり、<sup>くちばし</sup>くちばしは黒い。<sup>おばね</sup>尾羽は灰色  
<sup>しり</sup>でお尻の黒が目立つ。<sup>めだ</sup>メスは目の回りが黒  
<sup>ぜんしん</sup>っぽく、<sup>かつしよく</sup>全身が褐色で黒いはん点模様があ  
<sup>ぜんしん</sup>る。<sup>かつしよく</sup>メスのくちばしは<sup>だいたいいろ</sup>橙色で<sup>じょうぶ</sup>上部が黒い。

鳴き声:アツ、アツとか、ゲツ、ゲツと、<sup>ふと</sup>太く  
<sup>みじか</sup>短い声で鳴く。



No.10 オナガ

(カラス科)

大きさ: 34~39 cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られ、  
<sup>かしわし</sup>かしわし <sup>してい</sup>している  
柏市の鳥に指定されている。

<sup>まちなか</sup> <sup>さんち</sup> <sup>ばやし</sup>どこで見られるか:街中から山地の林や  
<sup>こうえん</sup> <sup>かわら</sup> <sup>ばやし</sup>公園、河原の林などで見られ、<sup>む</sup>群れていることが多い。

<sup>すがた</sup> <sup>かたち</sup> <sup>つばさ</sup> <sup>おばね</sup>どんな姿、形か:翼と尾羽は青っぽい  
<sup>はいいろ</sup>灰色で、<sup>ぼうし</sup>黒いベレー帽子をかぶったような  
<sup>あたま</sup> <sup>おばね</sup> <sup>うつく</sup>頭と長い尾羽が美しい。

<sup>た</sup> <sup>ひがしにほん</sup> <sup>とく</sup> <sup>かんとうちほう</sup>その他:東日本、特に関東地方に多いが、  
<sup>にしにほん</sup>西日本ではめずらしい。<sup>す</sup> <sup>ちか</sup>ツミの巣の近くで  
<sup>いっしょ</sup> <sup>かんざつ</sup>一緒に観察されることが多い。

鳴き声:「ギューイ」「ゲェー」「ギューキュ  
<sup>いろいろ</sup> <sup>な</sup> <sup>かた</sup>キュキュ」などと色々な鳴き方をする。





No.11 オナガガモ

(カモ科)

大きさ:オス51~74 cm、メス43 ~ 63 cm



メス

<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:冬鳥で、9月終わりにから  
<sup>ごろ</sup>3月頃まで見られる。

どこで見られるか:<sup>て が ぬまこうえん</sup>手賀沼公園ではよく見  
<sup>て が ぬま</sup>られ、手賀沼では、多く見られる年と少ない  
<sup>とし</sup>年がある。

<sup>すがた かたち</sup>どんな姿、形か:<sup>ほそなが</sup>オスの細長く黒い尾羽  
<sup>とく</sup>が特ちょう。<sup>あたま</sup>オスの頭はチョコレート色で、  
<sup>くび</sup>長い首の白い線が頭部に食い込む。<sup>くちば</sup>くちは  
<sup>ふち</sup>しは黒く、<sup>はいいろ</sup>淵が青っぽい灰色。<sup>じょうめん</sup>上面と脇は  
<sup>はいいろ</sup>灰色で、<sup>わき</sup>脇には黒く細かい横斑がある。メ  
<sup>ぜんたい</sup>スは全体が褐色で<sup>かつしやく</sup>まだら模様。<sup>もよう</sup>

鳴き声:フルリ、フルリなどとよく鳴く。



No.12 カイツブリ

(カイツブリ科)

大きさ: 25~29 cm



鳴き声: キュリリリ、ピュルル、ピッピッなどと鳴く。

いつ頃見られるか: 一年を通して見られる。  
5~8月の繁殖期には、水面の上に水草の茎や葉でつくられた浮巢や、ヒナを背に乗せる姿が見られることがある。

どこで見られるか: 手賀沼や手賀川、田んぼの水路(小川)などで見られる。

どんな姿、形か: 日本で一番小さいカイツブリのなかまで、くちばしと目の間に白いはん点がある。

その他: 水にもぐって、魚や水の中の昆虫などを食べる。



No.13 カシラダカ

(ホオジロ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約15cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: 冬鳥で、11月の終わりにから3月頃まで見られる。

どこで見られるか: 明るい林やその<sup>まわ</sup>り、<sup>くさち</sup>草地など、<sup>てがぬま</sup>手賀沼の<sup>はら</sup>ヨシ原でも見られる。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>あたま</sup>頭から<sup>じょうめん</sup>上面は<sup>かつしよく</sup>ほぼ褐色で、<sup>はら</sup>腹は<sup>あたま</sup>白い。<sup>うし</sup>頭の<sup>かんむり</sup>後ろに<sup>はね</sup>冠のような羽がある。

<sup>た</sup>その他: <sup>くさはら</sup>かれた草原では<sup>む</sup>群れていることもあり、<sup>くさ</sup>かれ草にかくれて見つけにくいですが、<sup>と</sup>近よると<sup>だ</sup>とつぜん<sup>えだ</sup>飛び出し<sup>と</sup>木の枝に止まる。

<sup>ぢな</sup>鳴き声: 地鳴きはチッなどと鳴く。アオジとよく似ている。



No.14 カルガモ

(カモ科)

大きさ: 58~63 cm



鳴き声: グェ、グェと太い声で鳴く。

いつ頃見られるか: <sup>ごろ</sup>最も身近なカモで、<sup>もっと みぢか</sup>一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>てがぬま てががわ すいろ</sup>手賀沼や手賀川、水路  
<sup>おがわ いろいろ ところ</sup>(小川)、田んぼなど、色々な所で見られる。  
<sup>たう ころ</sup>田植えの頃から夏は田んぼで見られることが多い。

どんな姿、形か: <sup>すがた かたち かお くび むね</sup>顔、首から胸は白っぽく、  
<sup>むね かつしよく あたま め まわ</sup>胸には褐色のはん点がある。頭と目の回り  
<sup>せん せん</sup>の線は黒く、ほおにも黒い線がある。くちば  
<sup>さき だいだい</sup>しは黒く、先が黄色で、足は 橙 色。



No.15 カワウ

(ウ科)

大きさ: 80~100 cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:<sup>てがぬま</sup>手賀沼や<sup>てががわ</sup>手賀川で<sup>くい</sup>杭の上<sup>はね</sup>にいたり、ぬれた羽を広げてかわかす<sup>すがた</sup>姿がよく見られる。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か:<sup>わか</sup>体がほぼ黒いが、若い<sup>とり</sup>鳥では褐色、<sup>かっしょく</sup>下面は<sup>かめん</sup>ほぼ白いものもいる。  
<sup>ね</sup>くちばしの<sup>まる</sup>つけ根は<sup>はんしょくき</sup>黄色く丸い。繁殖期に<sup>あたま</sup>は頭が白くなる。

<sup>た</sup>その他:<sup>さかな</sup>もぐって魚を<sup>う</sup>とり、浮かび上がり<sup>むかし</sup>のみこむ。昔はほとんどいなかったが、<sup>まえ</sup>30年ほど前<sup>きゆう</sup>から<sup>かず</sup>急に<sup>ふ</sup>数が増えてきた鳥。

鳴き声:グルルッ、グワッと鳴く。



No.16 カワセミ

(カワセミ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約17cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。  
8月~<sup>よくねん</sup>翌年3月頃に見られることが多い。

どこで見られるか:<sup>てがぬま みずべ</sup>手賀沼の水辺でよく見られる。  
<sup>すいろ こうえん いけ</sup>川や水路、公園の池などでも見られる。

<sup>すがた かたち</sup>どんな姿、形か:<sup>からだ くら</sup>小さな体に比べて頭と  
<sup>くちばし</sup>嘴が<sup>あし</sup>大きく、<sup>おばね</sup>足と<sup>みじか</sup>尾羽は<sup>じょうめん</sup>短い。上面は青  
<sup>みどり</sup>っぽい<sup>あたま</sup>緑色、<sup>みどり</sup>頭は<sup>かめん</sup>緑色、<sup>あかちいろ</sup>下面は赤茶色。

<sup>た</sup>その他:<sup>うつく</sup>とても美しい鳥で<sup>にんき</sup>人気がある。川  
<sup>よご</sup>の汚れて<sup>きんねん</sup>少なくなったが、<sup>ぬま</sup>近年は川や沼の  
水が<sup>ふ</sup>きれいになったため増えてきた。

鳴き声:チーと<sup>と</sup>飛びながら鳴くことが多い。



No.17 カワラヒワ

(アトリ科)

大きさ：<sup>やく</sup>約14cm



鳴き声：<sup>ち</sup>地鳴きはキリッキリッ。<sup>さえず</sup>囀りはキリキリコロコロと<sup>と</sup>飛びながら鳴いたり、ジュイーンと鳴く。

<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか：一年を通して見られる。

どこで見られるか：<sup>はたけ</sup>田んぼや<sup>かせんしき</sup>畑、<sup>はら</sup>河川敷、<sup>はら</sup>ヨシ原などでよく見られ、秋冬には田んぼや<sup>はたけ</sup>畑に<sup>む</sup>大きな群れでいることがある。<sup>でんせん</sup>電線にも<sup>む</sup>群れて<sup>と</sup>止まる。

どんな姿、形か：<sup>すがた</sup>全身が<sup>かたち</sup>黄っぽい<sup>ぜんしん</sup>褐色だが、<sup>かっしょく</sup>つばさの一部が黄色。飛ぶ時には<sup>いちぶ</sup>つばさの<sup>めだ</sup>黄色が目立つ。



No.18 カムリカイツブリ

(カイツブリ科)

大きさ: 46~51 cm



いつ頃見られるか:<sup>ごろ</sup>冬鳥で、<sup>ふゆどり</sup>11月から3月  
<sup>ごろ</sup>頃までよく見られる。

どこで見られるか:<sup>てがぬま</sup>手賀沼や<sup>てががわ</sup>手賀川の  
<sup>すいめん</sup>水面でよく見られる。

どんな姿、形か:<sup>すがた</sup>頭の<sup>かたち</sup>黒い<sup>あたま</sup>羽毛が<sup>うもう</sup>冠を<sup>かんむり</sup>  
かぶったような、日本で一番大きいカイツ  
<sup>いちばん</sup>ブリ類。首が長く、目の上は白くて、くちばし  
<sup>るい くび</sup>のつけ根と目をむすぶ黒い線が目立つ。  
<sup>ね</sup><sup>せん</sup><sup>めだ</sup>

その他:<sup>た</sup>水にもぐって<sup>さかな</sup>魚や水の中の<sup>こんちゅう</sup>昆虫  
などを食べる。

鳴き声:ほとんど鳴かない。

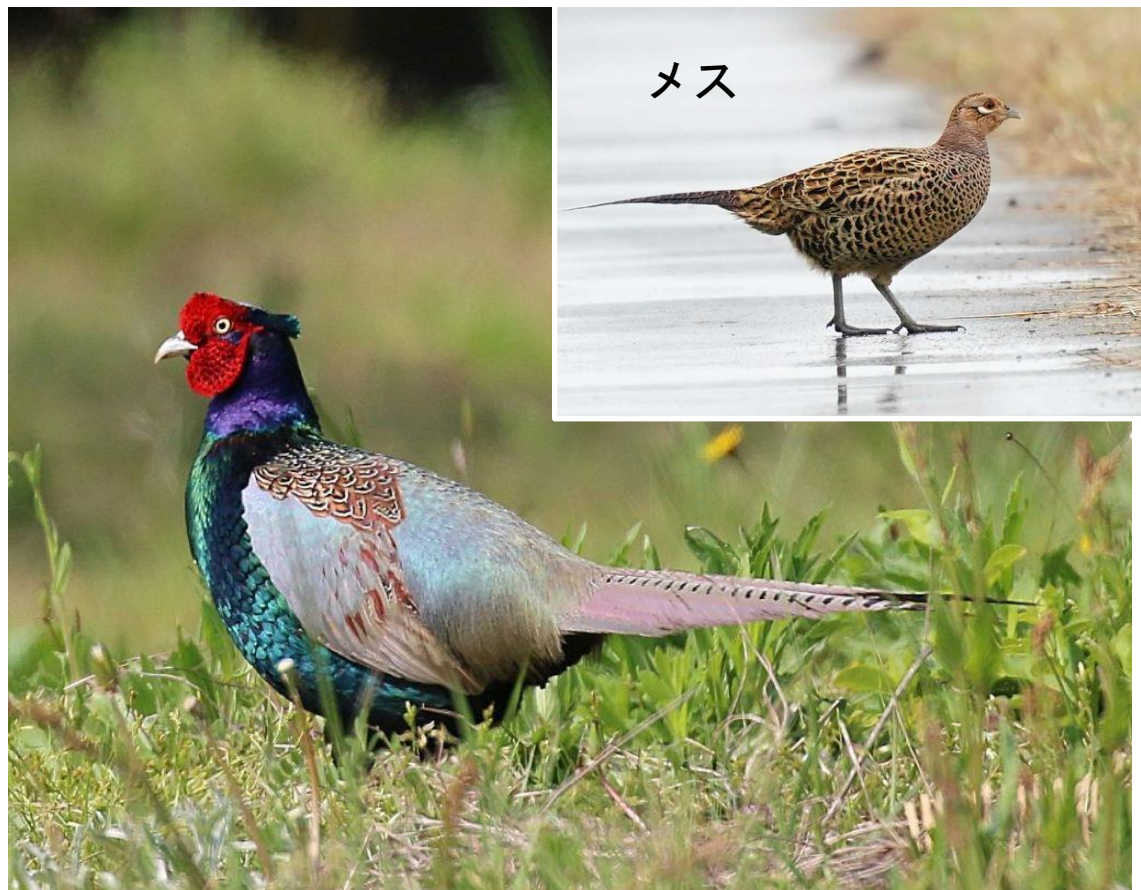




No.19 キジ

(キジ科)

大きさ: オス約80、メス約60 cm



メス

いつ頃見られるか:一年を通して見られる。  
特に繁殖期の春にはよく見られる。

どこで見られるか:ヨシ原、田んぼや畑などで見られ、手賀沼遊歩道でも周りのヨシ原や草地で見られる。

どんな姿、形か:オスの顔には、赤い肉だれのようなひふがあり目立つ。首から胸、下面は光るような緑色と紫色で、尾羽はとても長くて黒い斑点がある。メスは全体が黄色っぽい褐色で黒い斑点がある。

鳴き声:オスは、ケン、ケーンと大きな声で鳴く。

その他:日本の国の鳥。



No.20 キジバト

(ハト科)

大きさ：<sup>やく</sup>約33cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか：一年を通して見られる。

どこで見られるか：<sup>あか</sup>明るい<sup>はやし</sup>林、<sup>こうえん</sup>公園、<sup>にわさき</sup>庭先  
などでよく見られる。

どんな姿、形か：<sup>すがた</sup>黒地に<sup>かたち</sup>赤っぽい<sup>くろぢ</sup>褐色の<sup>かつしよく</sup>褐色の  
<sup>ふち</sup>縁どりが<sup>わ</sup>ある羽が<sup>もよう</sup>ウロコ模様に見える。首  
には<sup>はいいろ</sup>灰色と<sup>よこ</sup>黒の<sup>もよう</sup>横じま模様がある。

その他：<sup>た</sup>ヤマバトとも呼ばれる。<sup>よ</sup>ピジョンミ  
ルクといわれるミルクのような<sup>えいようえき</sup>栄養液をヒ  
ナに<sup>の</sup>飲ませて<sup>こそだ</sup>子育てする。

鳴き声：デデッポッポーと鳴く。



No.21 コガモ

(カモ科)

大きさ: 38~43 cm



いつ頃見られるか:<sup>ごろ</sup>冬鳥で、<sup>ふゆどり</sup>秋のはじめから春の終わりまで、カモのなかまでは一番<sup>いちばん</sup>長い間<sup>あいだ</sup>見られる。

どこで見られるか:<sup>てがぬま</sup>手賀沼や田んぼの<sup>すいろ とねがわ しっち</sup>水路、利根川、湿地などで見られる。ヨシ原<sup>はら</sup>の縁や茂みにかくれていることも多い。

どんな姿、形か:<sup>すがた かたち</sup>オスは、<sup>あたま あか</sup>頭が明るい<sup>ちやいろ め くび うし</sup>茶色、目から首の後ろにかけて<sup>みどり</sup>緑色で、目<sup>せん</sup>の下に白い線がある。体は<sup>からだ はいいろ</sup>灰色で、黒い線<sup>せん</sup>のような模様がある。メスは全身<sup>ぜんしんかつしよく</sup>褐色で黒<sup>てんもよう</sup>いはん点模様があり、<sup>じみ</sup>地味な色。

鳴き声: オスは<sup>ふえ</sup>ピリ、<sup>ね</sup>ピリと<sup>ふえ</sup>笛の音のような声で鳴く。



No.22 コゲラ

(キツツキ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約15cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>てがぬまゆうほどう</sup>手賀沼遊歩道の <sup>なみき</sup>並木  
<sup>ひろば</sup>や <sup>はら</sup>広場、<sup>こうえん</sup>ヨシ原の <sup>はやし</sup>木の上、<sup>こうえん</sup>公園や <sup>はやし</sup>林などで  
よく見られ、鳴き声とドラミングの音(木を  
つつく音)で <sup>き</sup>気づくことが多い。

<sup>すがた</sup>どんな <sup>かたち</sup>姿、<sup>あたま</sup>形か: <sup>じょうめん</sup>頭から <sup>こっかっしょく</sup>上面は黒褐色  
で、<sup>よこ</sup>白い <sup>もよう</sup>横しま模様があり、<sup>かめん</sup>下面は白い。

鳴き声: <sup>とく</sup>ギーツ、ギーツと <sup>とく</sup>特ちょうのある  
声で鳴く。

<sup>た</sup>その他: 冬はシジュウカラやメジロなどの  
<sup>む</sup>群れにまじっていることがある。



No.23 コサギ

(サギ科)

大きさ: 55~65 cm



<sup>ごろ</sup>  
いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

<sup>て が ぬま て が が わ し ゅ う へ ん</sup>  
どこで見られるか:手賀沼や手賀川周辺  
<sup>み ず べ す い ろ</sup>  
の水辺、田んぼや水路などで見られる。

<sup>す が た か た ち る い</sup>  
どんな姿、形か:日本の白いサギ類では  
<sup>い ち ば ん あ し ゆ び</sup>  
一番小さい。くちばしが黒く、足指の黄色が  
<sup>と く は ん し ょ く き あ た ま か ん む り</sup>  
特ちょう。繁殖期には頭に2本の冠のよ  
<sup>う も う は ん し ょ く き</sup>  
うな羽毛がのびる。繁殖期のはじめには  
<sup>め さ き あ し ゆ び</sup>  
目先と足指が赤っぽくなる。

<sup>は る さ き ご ろ</sup>  
鳴き声:春先から夏頃にグワーと鳴く。



No.24 コチドリ

(チドリ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約15cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>なつどり</sup>夏鳥で、春から秋に見られる。

どこで見られるか:<sup>て が ぬましゅうへん</sup>手賀沼周辺の田んぼ  
<sup>はたけ ひがた</sup>や畑、<sup>かわら のうどう</sup>干潟などで見られる。<sup>あ ち</sup>河原や<sup>す</sup>農道、<sup>こそだ</sup>空き地などでも<sup>す</sup>巣をつくり<sup>こそだ</sup>子育てすることがある。

<sup>すがた かたち</sup>どんな姿、<sup>まわ せん かお</sup>形か:<sup>まわ せん かお</sup>黄色の目の回りの線、<sup>くびわ</sup>顔と<sup>おびもよう とく</sup>黒い首輪のような<sup>おびもよう とく</sup>帯模様が<sup>おびもよう とく</sup>特ちょう。

<sup>た じめん す</sup>その他:<sup>たまご う</sup>地面に<sup>たまご う</sup>巣をつくり<sup>たまご う</sup>卵を産むため、<sup>たまご いし</sup>卵は<sup>いろ もよう めだ</sup>石のような色と<sup>いろ もよう めだ</sup>模様で<sup>いろ もよう めだ</sup>目立たない。

<sup>はるさき</sup>鳴き声:<sup>はるさき</sup>ピオ、ピオと鳴く、<sup>はるさき</sup>春先から<sup>はるさき</sup>夏ころには  
<sup>と まわ</sup>ピオ、ピオ、<sup>と まわ</sup>ビュー、ビューと鳴いて<sup>と まわ</sup>飛び回る。



No.25 コブハクチョウ

(カモ科)

大きさ: 125~165 cm



いつ頃見られるか: <sup>ごろ</sup>一年を通して見られる。  
<sup>ころ</sup>5~6月頃はヒナの <sup>すがた</sup>姿も見られる。

どこで見られるか: <sup>てがぬま</sup>手賀沼や <sup>てががわ</sup>手賀川の  
<sup>みずべ</sup>水辺や <sup>だいた</sup>田んぼでよく見られる。

どんな <sup>すがた</sup>姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>だいた</sup>くちばしは赤みのある  
<sup>だいた</sup>橙色で、<sup>だいた</sup>ひたいに黒く大きなこぶがある。

その他: <sup>た</sup>外国から来た鳥で、<sup>がいこく</sup>もともと日本に  
<sup>しぜん</sup>いた鳥ではない。自然の大きな池や沼など  
<sup>う</sup>にすむようになり、ヒナも産んで育てる。

鳴き声: <sup>こそだ</sup>ほとんど鳴かないが、子育て中はシューツ  
という、人をけいかいする声を出すことがある。



No.26 サシバ

(タカ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約50cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: <sup>なつどり</sup>夏鳥で、3月から7月頃  
<sup>す</sup>に見られる。8月を過ぎると見られなくなる。

<sup>さとやま</sup>どこで見られるか: 里山のタカといわれ、  
<sup>てが</sup>手賀 <sup>おかこうえんしゅうへん</sup>の丘公園周辺 <sup>かしわしてが</sup>や <sup>ふぜ</sup>柏市手賀・布瀬  
<sup>ちく</sup>地区、<sup>あび</sup>我孫子市 <sup>こしな</sup>市中峠地区 <sup>びょうちく</sup>などの <sup>はやし</sup>林や  
<sup>やち</sup>谷地で見られる。3、4月頃は <sup>ころ</sup>電柱 <sup>でんちゆう</sup>に <sup>と</sup>止まっ  
ていることがある。

<sup>するど</sup>鳴き声: ピックイーなどと鋭い声で鳴く。

オス・メスとも鳴き、<sup>き</sup>キスミーのように聞こえる。

<sup>すがた</sup>どんな <sup>かたち</sup>姿、<sup>からだ</sup>形か: <sup>じょうめん</sup>体の <sup>かつしよく</sup>上面は褐色、<sup>じゅうはん</sup>どの  
は <sup>かめん</sup>白く <sup>おうはん</sup>黒い縦斑がある。下面に横斑があ  
<sup>びはん</sup>る。メスは <sup>めだ</sup>白い眉斑が目立つものが多い。





No.27 シジュウカラ

(シジュウカラ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約14cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:<sup>はら</sup>ヨシ原、<sup>はやし</sup>林、<sup>こうえん</sup>公園や  
<sup>まちなか</sup>街中の<sup>たき</sup>立ち木など、<sup>いろいろ</sup>色々な<sup>ところ</sup>所で見られる。  
<sup>てがぬまゆうほどう</sup>手賀沼遊歩道でも見られる。

<sup>すがた</sup>どんな<sup>かたち</sup>姿、<sup>じょうめん</sup>形か:<sup>はいいろ</sup>上面は灰色、<sup>あたま</sup>頭は黒く、  
<sup>ほお</sup>頬が<sup>かめん</sup>白い。下面は<sup>のど</sup>白く、<sup>むね</sup>喉から<sup>はら</sup>胸・腹に<sup>もよう</sup>黒い  
ネクタイのような模様がある。

鳴き声:さえずりは「ツツピー、ツツピー」、  
<sup>ちな</sup>地鳴き「チンチン、ジュクジュク」など。

<sup>た</sup>その他:冬は<sup>ま</sup>メジロやエナガなどが混じっ  
<sup>む</sup>た群れていることが多い。



No.28 ジョウビタキ

(ヒタキ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約15cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ごろ</sup>頃まで見られる。

<sup>まちなか こうえん にわさき</sup>どこで見られるか:街中の公園や庭先から  
<sup>はたち はら いろいろ ところ</sup>畑地やヨシ原まで色々な所で見られる。

<sup>すがた かたち</sup>どんな姿、形か:<sup>あたま ぎんいろ かお</sup>オスは頭が銀色、顔から  
<sup>のど じょうめん</sup>喉と上面は黒っぽい褐色、<sup>かつしよく はら あかちゃいろ</sup>腹は赤茶色で  
<sup>つばさ はね めだ</sup>翼の白い羽が目立つ。<sup>あたま じょうめん</sup>メスは頭から上面  
<sup>はいいろ</sup>が灰色っぽい褐色、<sup>かつしよく かめん</sup>下面はうすい褐色で、  
<sup>つばさ はね</sup>翼の白い羽はオスより小さい。

鳴き声:ヒツ、ヒツ、カタカタと鳴く。ルリビタキと  
くべつ  
区別がむずかしい。カツ、カツ、カツとも鳴く。



No.29 スズメ

(スズメ科)

大きさ: 14~15 cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:<sup>まちなか</sup>街中から<sup>こうえん</sup>公園、<sup>たはた</sup>田畑、<sup>ヨシ原</sup>ヨシ原まで、<sup>いろいろなところ</sup>色々な所で見られる。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か:<sup>あたま</sup>頭と<sup>せ</sup>背は褐色で、<sup>しょうめん</sup>上面には<sup>じゅうはん</sup>黒い縦斑がある。<sup>つばさ</sup>翼には<sup>ほそ</sup>細い2本の<sup>せん</sup>白い線がある。<sup>かお</sup>顔は白く、<sup>ほお</sup>頬に<sup>てん</sup>黒い大きな点がある。

その他:<sup>たみちか</sup>身近な鳥で、<sup>ひと</sup>人が<sup>す</sup>住んでいる<sup>ところ</sup>所で<sup>せいかつ</sup>生活する。秋冬には<sup>はら</sup>ヨシ原や<sup>たはた</sup>田畑などで<sup>む</sup>大きな群れでいることがある。

<sup>ちな</sup>鳴き声:地鳴きは「チュン チュン」、  
「ジュジュジュ」などと鳴く。



No.30 セグロカモメ

(カモメ科)

大きさ: 55~67 cm



いつ頃見られるか: <sup>ごろ</sup>冬鳥で、<sup>ふゆどり</sup>11月から3月  
<sup>ころ</sup>頃まで見られる。

どこで見られるか: <sup>かず</sup>数は多くないが、<sup>てが</sup>手賀  
<sup>ぬま</sup>沼や<sup>てががわ</sup>手賀川でよく見られる。<sup>てがぬま</sup>手賀沼では、  
<sup>くい</sup>杭や<sup>こぶね</sup>小舟などの<sup>やす</sup>上で<sup>すいめん</sup>休んでいたり、<sup>う</sup>水面に  
浮かんでいることもある。

どんな <sup>すがた</sup>姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>おおがた</sup>大型のカモメで、<sup>あたま</sup>頭と  
<sup>かめん</sup>下面は白、<sup>じょうめん</sup>上面は灰色、<sup>はいろ</sup>翼の<sup>つばさ</sup>先は黒くて白  
<sup>てん</sup>いはん点がある。<sup>くちばし</sup>嘴は黄色で、<sup>したくちばし</sup>下嘴の<sup>さき</sup>先  
に赤いはん点があり、<sup>あし</sup>足はピンク色。

鳴き声: ガァアハハア、アオー。



No.31 セグロセキレイ

(セキレイ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約21cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>てがぬま</sup>手賀沼などの <sup>みずべ</sup>水辺や <sup>しっち</sup>湿地、<sup>はたち</sup>田んぼや畑地でよく見られる。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>あたま</sup>頭から <sup>せ</sup>背と <sup>むね</sup>胸は黒いが、<sup>め</sup>目の上から <sup>くちばし</sup>嘴つけ根と <sup>ね</sup>嘴の <sup>くちばし</sup>下が白い。  
<sup>に</sup>ハクセキレイと似ているが、<sup>め</sup>目の下が白くなく黒いので、その <sup>ちが</sup>違いがわかる。<sup>おばね</sup>尾羽が <sup>なが</sup>長く、よく <sup>じょうげ</sup>上下に <sup>ふ</sup>振る。

鳴き声:ジジッ、ジジッなどと鳴く。

<sup>た</sup>その他: <sup>ちょうせんはんとう</sup>日本と朝鮮半島の <sup>いちぶ</sup>一部だけにしかいない。



No.32 セッカ

(セッカ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約12.5cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: 一年を通して見られるが、4月から10月頃<sup>ころ</sup>によく見られ、秋冬は見つけにくい。

どこで見られるか: <sup>て が ぬま て が が わ し ゅ う へ ん</sup>手賀沼や手賀川周辺の<sup>は ら く さ ち た は た</sup>ヨシ原、草地、田畑でよく見られる。春から夏に鳴きながら飛<sup>と</sup>んでいる<sup>すがた</sup>姿を見ることが多い。

<sup>すがた かたち あたま こっかっしょく じょうめん</sup>どんな姿、形か: 頭が黒褐色、上面は黄色<sup>かっしょく</sup>っぽい褐色で黒い縦斑がある。尾羽は<sup>じゅうはん おばね</sup>黒褐色で先が白<sup>さき</sup>い。下面はうすい茶色。冬<sup>からだぜんたい</sup>は体全体の色がうすくなる。

<sup>と</sup>鳴き声: オスは飛びながらヒツヒツと鳴いて上にあがり、チャッチャと鳴いて下におりる。



No.33 ダイサギ

(サギ科)

大きさ: 80~104 cm



<sup>ごろ</sup>  
いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

<sup>てがぬま</sup> <sup>てががわしゅうへん</sup>  
どこで見られるか:手賀沼や手賀川周辺  
<sup>みずべ</sup> <sup>すいでん</sup> <sup>すいろ</sup> <sup>しっち</sup>  
の水辺、水田、水路、湿地などで見られる。

<sup>すがた</sup> <sup>かたち</sup> <sup>おおがた</sup> <sup>くちばし</sup>  
どんな姿、形か:大型の白いサギで、嘴  
<sup>めさき</sup> <sup>きみどりいろ</sup>  
が夏は黒く、冬は黄色。目先が冬は黄緑色  
<sup>はんしょくき</sup> <sup>はじ</sup> <sup>あおみどりいろ</sup> <sup>くび</sup>  
だが、繁殖期の初めは青緑色になる。首が  
<sup>なが</sup> <sup>エスじ</sup> <sup>ま</sup> <sup>すがた</sup>  
長く、S字に曲げた姿をよく見る。

<sup>た</sup> <sup>みずべ</sup> <sup>ある</sup> <sup>さかな</sup>  
その他:水辺をゆっくり歩き魚・カエルな  
<sup>くび</sup> <sup>の</sup> <sup>なが</sup> <sup>くちばし</sup>  
どをみつけると、首を伸ばして長い嘴で  
<sup>つか</sup>  
捕まえる。

鳴き声:グァーグァーと鳴く。



No.34 タゲリ

(チドリ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約30cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: <sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ごろ</sup>頃まで見られる。

<sup>はたけ</sup> <sup>しばふ</sup>どこで見られるか: 田んぼや畑、芝生のあ  
<sup>ばしょ</sup> <sup>くさち</sup>る場所や草地などで見られ、<sup>む</sup>群れているこ  
とが多い。

<sup>すがた</sup> <sup>かたち</sup> <sup>がく</sup> <sup>あたま</sup> <sup>なが</sup>どんな姿、形か: 額から頭に黒くて長い  
<sup>かんむり</sup> <sup>はね</sup> <sup>かお</sup> <sup>ふちど</sup>冠のような羽があり、顔に黒い縁取りのよ  
<sup>もよう</sup> <sup>じょうめん</sup> <sup>ひか</sup> <sup>みどりいろ</sup>うな模様がある。上面は光るような緑色。  
<sup>かめん</sup> <sup>むね</sup> <sup>ふと</sup> <sup>おび</sup> <sup>もよう</sup>下面は白く胸に太く黒い帯のような模様  
<sup>くび</sup> <sup>みじか</sup> <sup>め</sup>がある。首が短く、目が大きい。

<sup>と</sup> <sup>こねこ</sup>鳴き声: 飛ぶときミューと子猫のように鳴く。





No.35 タシギ

(シギ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約27cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: 冬鳥で、11月から3月頃に見られる。8月終わり頃には、北から南に渡るものも見られる。

どこで見られるか: <sup>すいろ てがぬま</sup>田んぼや水路、手賀沼の<sup>しっち</sup>湿地などで見られる。じっとしているか、<sup>うご なが くちばし どろ ちゅう</sup>ゆっくりと動き、長い嘴で泥の中のミミズなどを<sup>つか</sup>捕まえる。

<sup>すがた かたち しょうめん こっかっしょく</sup>どんな姿、形か: 上面は黒褐色で、クリーム色の線模様がある。下面は白いが、胸に<sup>せんもよう かめん むね</sup>は黒褐色の縦班がある。嘴はとても長く、<sup>こっかっしょく じゅうはん くちばし なが</sup>目の前後は褐色の太い帯模様がある。

<sup>と た</sup>鳴き声: ジェツ、ジュイと、飛び立つときに鳴くことが多い。



No.36 タヒバリ

(セキレイ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約16cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: <sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ごろ</sup>頃まで見られる。

どこで見られるか: 田んぼでよく見られ、  
<sup>たがや</sup> <sup>あと</sup> <sup>えさ</sup> <sup>た</sup> <sup>あつ</sup>  
耕した後の田んぼに餌を食べに集まる。

<sup>すがた</sup> <sup>かたち</sup> <sup>じょうめん</sup> <sup>はいいろ</sup> <sup>かつしよく</sup>  
どんな姿、形か: 上面は灰色っぽい褐色  
<sup>こっかつしよく</sup> <sup>じゅうはん</sup> <sup>かめん</sup> <sup>じゅう</sup>  
で黒褐色の縦班、下面は白っぽく黒い縦  
<sup>はん</sup> <sup>ほそ</sup> <sup>びはん</sup> <sup>めだ</sup>  
班があり、細い白い眉班が目立つ。

<sup>た</sup> <sup>に</sup> <sup>ひら</sup>  
その他: ビンズイによく似るがタヒバリは開  
<sup>ばしょ</sup> <sup>ぞうきばやし</sup>  
けた場所にすむが、ビンズイは雑木林など  
にすむ。

鳴き声: ピッピッピイピイと高い声で鳴き、  
おどろいたときに鳴いて飛び立つ。



No.37 チュウサギ

(サギ科)

大きさ: 63~72 cm



いつ頃見られるか:<sup>ごろ</sup>夏鳥<sup>なつどり</sup>で、4月から9月頃<sup>ころ</sup>まで見られる。

どこで見られるか:<sup>て が ぬましゅうへん</sup>手賀沼周辺の田んぼなどで見られる。夏<sup>お</sup>の終わりから秋<sup>いね</sup>には、稲<sup>か あと</sup>狩り後の田んぼで<sup>るい た すがた</sup>バッタ類を食べる姿をよく見られる。その頃には、手賀沼と手賀川<sup>ころ て が ぬま て が が わ</sup>には、ねぐら<sup>よる しゅうだん</sup> (夜に集団でねる場所)<sup>ばしょ</sup>ができることもある。

鳴き声:ゴァーと鳴くが、めったに鳴かない。

どんな姿、形か:<sup>すがた かたち</sup>中型の白いサギで、<sup>ちゅうがた</sup>嘴<sup>くちばし</sup>は短く黄色いが、夏は先が黒くなる。<sup>みじか さき</sup>



No.38 チョウゲンボウ

(ハヤブサ科)

大きさ: オス約30、メス約33 cm



いつ頃見られるか: 一年を通して見られるが、冬の方がよく見られる。

どこで見られるか: 手賀沼・手賀川や利根川周辺の田畑や河川敷などで見られる。羽ばたきながら、鼠などの獲物を探し、狩りをする姿も見られることがある。

どんな姿、形か: スマートな体形で、オスは頭が青っぽい灰色、上面は茶褐色で黒い点があり、下面は褐色で黒褐色の点がある。顔にひげのような模様がある。メスは頭が茶色。

鳴き声: キイキイキイキと鳴く。春先から夏にオスがメスと呼ぶときクリー、ウリーと鳴く。



No.39 ツグミ

(ヒタキ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約24cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から4月  
<sup>ころ</sup>頃まで見られる。

どこで見られるか:<sup>こうえん</sup>公園の<sup>くさち</sup>草地や<sup>たはた</sup>田畑から  
<sup>はら</sup>ヨシ原まで<sup>いろいろ</sup>色々な<sup>ところ</sup>所で見られる。<sup>てがめま</sup>手賀沼  
<sup>ゆうほどう</sup>遊歩道でも見られる。

<sup>すがた</sup>どんな<sup>かたち</sup>姿、<sup>あたま</sup>形か:<sup>じょうめん</sup>頭から<sup>はいいろ</sup>上面は灰色がか  
<sup>こっかっしょく</sup>った<sup>つばさ</sup>黒褐色、<sup>はね</sup>翼の<sup>ふち</sup>羽の<sup>くりいろ</sup>縁は栗色。<sup>びはん</sup>眉斑と  
<sup>のど</sup>喉は<sup>かめん</sup>クリーム色。下面は<sup>むね</sup>白いが、<sup>わきばら</sup>胸から  
<sup>てん</sup>脇腹にかけて<sup>こ</sup>黒いはん点がある。オスは  
<sup>ぜんたい</sup>全体の<sup>こ</sup>色が濃くハッキリしているが、メスは  
色がうすい。

鳴き声:クィクィまたはキュッキューと鳴く。



No.40 ツツドリ

(カッコウ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約29cm



いつ頃見られるか: <sup>なつどり</sup>夏鳥で、<sup>わた</sup>春と秋の渡りの時期に見られる。

どこで見られるか: <sup>さくら</sup>桜の木がある公園や <sup>こうえん</sup>てがぬまゆうほどう <sup>さくらなみき</sup>手賀沼遊歩道の桜並木などで見られる。  
<sup>さくら</sup>桜の木につく毛虫を食べる。

どんな姿、形か: <sup>すかた</sup>カッコウに似ているが、<sup>かたち</sup>下面の横斑は太くてあらく、<sup>に</sup>目はカッコウより暗い色。

その他: <sup>た</sup>ツツドリは主に <sup>おも</sup>センダイムシクイに <sup>たくらん</sup>托卵(\*)する。

鳴き声: <sup>たけづつ</sup>ポポポ、<sup>つづ</sup>ポポポと竹筒をたたくように続けて鳴く。

(\*) <sup>たくらん</sup>托卵とは、<sup>じぶん</sup>自分の <sup>たまご</sup>卵を <sup>ほか</sup>他の鳥の <sup>す</sup>巣に <sup>う</sup>産みつけ、<sup>とり</sup>その鳥に <sup>たまご</sup>卵をかえらせてもらい、<sup>こそだ</sup>子育てしてもらうことをいう。カッコウ科の鳥は <sup>か</sup>托卵 <sup>とり</sup>すること <sup>たくらん</sup>で知られる。



No.41 ツバメ

(ツバメ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約17cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: 夏鳥で、3月から9月頃<sup>ころ</sup>まで見られる。

どこで見られるか: <sup>まちなか</sup>街中や<sup>てがぬましゅうへん</sup>手賀沼周辺の<sup>たはた</sup>田畑、<sup>はら</sup>ヨシ原などで見られる。<sup>いえ</sup>家の<sup>げんかん</sup>玄関の<sup>のきした</sup>軒下などに<sup>す</sup>巣をつくり<sup>こそだ</sup>子育てする。

どんな姿、形か: <sup>すがた</sup>頭から<sup>かたち</sup>上面は<sup>あたま</sup>黒く、<sup>じょうめん</sup>下面<sup>かめん</sup>は<sup>ひたい</sup>白い。<sup>のど</sup>額と<sup>あかちいろ</sup>喉は<sup>のど</sup>赤茶色で<sup>おび</sup>喉に<sup>もよう</sup>黒い<sup>お</sup>帯<sup>ちゅうおう</sup>模様がある。<sup>ふか</sup>尾は<sup>き</sup>中央で<sup>こ</sup>深く<sup>そとがわ</sup>切れ込み、<sup>わ</sup>外側の<sup>なが</sup>羽が長い。

その他: <sup>た</sup>夏の<sup>おわ</sup>終りの<sup>ゆうがた</sup>夕方には<sup>てがぬまなんがん</sup>手賀沼南岸<sup>はら</sup>の<sup>しゅうだん</sup>ヨシ原で<sup>ばしょ</sup>ねぐら(集団で<sup>い</sup>ねる場所)入り<sup>む</sup>の<sup>む</sup>群れが見られる。

鳴き声: 「チョビッ、チリー」「チプチェイ、チプチェイ、ジー」と鳴く。



No.42 ツミ

(タカ科)

大きさ: オス約27、メス約30 cm

オス



メス



いつ頃見られるか: 夏鳥で、3月から8月頃まで見られるが、数は少ない。

どこで見られるか: 公園や街中の並木、住宅地の緑地などで見られる。

どんな姿、形か: オスは上面が青っぽい灰色、下面はうすい橙色で、目が赤い。メスは上面がこい灰色、下面は白く褐色の横班がある。

鳴き声: キーキツキツキツ、ピョーピョッピョッピョッなどと尻さがりに鳴く。

その他: 日本で見られるタカでは最も小さい。40年くらい前は山の中にいてめったに見られなかったが、近年は街中でも見られるようになってきた。





No.43 トビ

(タカ科)

大きさ：オス約<sup>やく</sup>58.5、メス約<sup>やく</sup>68.5 cm



いつ頃見られるか：<sup>ごろ</sup>一年を通して見られる。<sup>かぜ</sup>春秋には鳴きながら風<sup>と</sup>にのって飛ぶ<sup>すがた</sup>姿をよく見られる。

どこで見られるか：<sup>てがぬま</sup>手賀沼や<sup>とねがわしゅうへん</sup>利根川周辺などの水<sup>みずべ</sup>辺に近<sup>ちか</sup>い場所や街中<sup>ばしよ</sup>で見られる<sup>まちなか</sup>ことが多い。

どんな姿、形か：<sup>すがた</sup>全体に<sup>かたち</sup>茶褐色で<sup>ぜんたい</sup>尾羽は<sup>ちゃかっしょく</sup>バチ型<sup>おぼね</sup>に見える。<sup>がた</sup>

その他：<sup>た</sup>日本では最も普通<sup>もっと</sup>に見られるタカだが、<sup>てがぬましゅうへん</sup>手賀沼周辺ではそれほど多くはなく、むしろ少ない<sup>ほう</sup>方<sup>し</sup>かも知れない。

鳴き声：<sup>と</sup>ピーヒョロロと飛びながら鳴く。



No.44 ノスリ

(タカ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約54cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>かんさつきろく</sup>観察記録は一年を通してあ  
<sup>ふゆどり</sup>るが、ほぼ冬鳥で、10月から4月頃まで見られ  
ることが多い。

<sup>てがぬま</sup> <sup>てががわ</sup> <sup>とねがわ</sup>  
どこで見られるか:手賀沼、手賀川、利根川  
<sup>しゅうへん</sup> <sup>ひろびろ</sup> <sup>たはた</sup> <sup>かせんしき</sup> <sup>かせ</sup>  
周辺などの広々とした田畑、河川敷などで、風  
<sup>と</sup> <sup>すがた</sup> <sup>たか</sup> <sup>えだ</sup> <sup>くい</sup> <sup>でんちゅう</sup> <sup>と</sup>  
にのって飛ぶ姿、高い木の枝、杭や電柱に止  
<sup>すがた</sup>  
まる姿がよく見られる。

<sup>すがた</sup> <sup>かたち</sup> <sup>じょうめん</sup> <sup>こっかつしよく</sup> <sup>かめん</sup>  
どんな姿、形か:上面は黒褐色で、下面はク  
<sup>わき</sup> <sup>はら</sup> <sup>こっかつしよく</sup> <sup>もよう</sup>  
リーム色で脇から腹にある黒褐色の模様が  
<sup>はらまき</sup> <sup>つばさ</sup> <sup>はばひろ</sup> <sup>かめん</sup> <sup>ぜんえん</sup>  
腹巻のように見える。翼は幅広く下面の前縁の  
<sup>もよう</sup> <sup>めだ</sup> <sup>おばね</sup> <sup>おうぎがた</sup>  
黒い模様が目立つ。尾羽は扇形に見える。

<sup>しり</sup>  
鳴き声:ピーエーと尻さがりに飛びながら鳴く。  
冬はほとんど鳴かない。



No.45 ハクセキレイ

(セキレイ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約21cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>てがぬま</sup>手賀沼などの <sup>みずべ</sup>水辺に  
いることが多いが、<sup>たはた</sup>田畑や <sup>まちなか</sup>街中の <sup>こうえん</sup>公園や <sup>じゅう</sup>住  
<sup>たくち</sup>宅地など、<sup>いろいろ</sup>色々な <sup>ばしょ</sup>場所で見られる。

どんな <sup>すがた</sup>姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>あたま</sup>頭から <sup>せ</sup>背は <sup>こくしょく</sup>黒色か  
<sup>はいいろ</sup>灰色、<sup>はら</sup>腹と <sup>つばさ</sup>翼は <sup>おばね</sup>白く、<sup>せ</sup>尾羽が長い。メスは背  
<sup>はいいろ</sup>の色がうすく <sup>はいいろ</sup>灰色がかかる。

その他: <sup>た</sup>セグロセキレイと似ているが、<sup>に</sup>目の  
<sup>ちが</sup>下が白いことで <sup>おばね</sup>違いがわかる。よく <sup>め</sup>尾羽を  
<sup>じょうげ</sup>上下に <sup>ふ</sup>振る。

鳴き声: チュチュン、チュチュンなどと鳴く。



No.46 ハシブトガラス

(カラス科)

大きさ: <sup>やく</sup>約57cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>じゅうたくち</sup>住宅地、<sup>はやし</sup>林、<sup>たはた</sup>田畑など、  
<sup>いろいろ</sup>色々な場所で見られる。<sup>まちなか</sup>街中で<sup>あさ</sup>ゴミをあさ  
<sup>すがた</sup>る姿も見ることがある。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>ぜんしんま</sup>全身真っ黒で、<sup>くろ</sup>額が<sup>ひたい</sup>で  
<sup>くちばし</sup>っぱり、<sup>ふと</sup>嘴が太くて大きく、<sup>うえくちばし</sup>上嘴がカーブ  
している。

<sup>た</sup>その他: <sup>とり</sup>鳥の中ではとても<sup>ちのう</sup>知能が高いとさ  
<sup>こうげきてき</sup>れ、<sup>おそ</sup>攻撃的で、あまり人を恐れ  
ない。

鳴き声:カーカー、カッポカッポなどと鳴く。



No.47 ハシボソガラス

(カラス科)

大きさ: <sup>やく</sup>約50cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>て が ぬましゅうへん たはた</sup>手賀沼周辺の田畑に多く見られ、<sup>す</sup>高い木の上に巣をつくる。

<sup>すがた かたち</sup>どんな姿、形か:ハシボトガラスと同じよう  
<sup>ぜんしん ま くる</sup>に全身真っ黒だが、少し小さい。<sup>くちばし</sup>嘴はハシ  
<sup>ほそ まる</sup>ボトガラスより細く小さく、丸みがある。

<sup>た</sup>その他:<sup>そら</sup>クルミを空の上から<sup>お</sup>落とし<sup>わ</sup>割ったり、<sup>どうろ</sup>道路で<sup>くるま</sup>車にひかせて<sup>わ</sup>割ったりして<sup>た</sup>食べる  
ことがある。

鳴き声:ガァ、ガァとにごった声で鳴く。



No.48 ハジロカイツブリ

(カイツブリ科)

大きさ: 28~34 cm



いつ頃見られるか: <sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ころ</sup>頃まで見られる。3月頃には <sup>む</sup>群れを見ることがある。

どこで見られるか: <sup>てがぬま</sup>手賀沼や <sup>てががわ</sup>手賀川の  
<sup>すいめん</sup>水面で見られるが、すぐにもぐって、<sup>すいちゆう</sup>水中の  
<sup>こざかな</sup>小魚やエビなどを食べる。

どんな姿、形か: <sup>すがた</sup>小型の <sup>かたち</sup>カイツブリ類で、  
<sup>つばさ</sup>翼の一部が <sup>いちぶ</sup>白く、<sup>め</sup>目が <sup>くちばし</sup>赤い。 <sup>みじか</sup>嘴が短く、  
<sup>そ</sup>少し上に反っている。3月の <sup>お</sup>終わり頃になる  
と夏の <sup>はねいろ</sup>羽色に変わり、<sup>かお</sup>顔から <sup>あたま</sup>頭が黒くなり、  
<sup>め</sup>目の後ろに <sup>うし</sup>金色の <sup>きんいろ</sup>羽が <sup>はね</sup>でてくる。

鳴き声: ほとんど鳴かない。



No.49 バン

(クイナ科)

大きさ: 30~38 cm



<sup>ごろ</sup>  
いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

<sup>てがぬま てががわ</sup>  
どこで見られるか:手賀沼や手賀川などの  
<sup>みずべ しっち</sup>  
水辺や湿地で見られるが、数は少ない。田  
<sup>かず</sup>  
んぼや水路で見られることもある。

<sup>すがた かたち くちばし がくばん ひたい いた</sup>  
どんな姿、形か:嘴と額板(額にある板  
<sup>はね は</sup>  
のような羽が生えていない部分)が赤く、  
<sup>くちばし</sup>  
嘴の先は黄色い。

鳴き声:クルツ、キャツと鋭い声で鳴く。  
<sup>するど</sup>  
鳴き声<sup>わら</sup>が笑い声<sup>に</sup>に似ている。

<sup>た るい およ</sup>  
その他:クイナ類はあまり泳がないが、バン  
<sup>およ</sup>  
は泳ぐことが多い。



No.50 ヒドリガモ

(カモ科)

大きさ: 45~51 cm



鳴き声: オスは、<sup>ふえ</sup>ピューと<sup>ね</sup>笛の音のような強い声で鳴く。

いつ頃見られるか: <sup>ごろ</sup>冬鳥で、<sup>ふゆどり</sup>11月から3月頃まで見られる。

どこで見られるか: <sup>てがぬま</sup>手賀沼の<sup>しもぬま</sup>下沼(手賀沼<sup>おおはし</sup>大橋より<sup>ひがしがわ</sup>東側)でよく見られる。

どんな姿、形か: <sup>すがた</sup>オスは<sup>かたち</sup>頭が<sup>あたま</sup>レンガ色で<sup>ひたい</sup>額から<sup>あたま</sup>頭の<sup>てっぺん</sup>天辺まで<sup>めだ</sup>クリーム色で目立つ。胸は<sup>むね</sup>赤みのある<sup>かつしやく</sup>褐色。上面と脇は<sup>じょうめん</sup>灰色で、<sup>わき</sup>黒い<sup>はいいろ</sup>縞模様がある。お尻部分は<sup>しりぶぶん</sup>黒い。メスは全体が<sup>ぜんたい</sup>赤みのある<sup>かつしやく</sup>褐色。嘴は<sup>くちばし</sup>オス・メスともに<sup>はいいろ</sup>青っぽい<sup>さき</sup>灰色で<sup>くちばし</sup>先が黒い。





No.51 ヒバリ

(ヒバリ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約17cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>たはた くさち かせんしき</sup>田畑、草地、河川敷などでよく見られる。

<sup>すがた かたち あたま うし かんむり</sup>どんな姿、形か:頭の後ろに冠のような  
<sup>はね</sup>羽があり、<sup>ときどき た</sup>時々立てる。<sup>じょうめん</sup>上面は黄色っぽい  
<sup>かつしよく こっかつしよく じゅうはん かめん</sup>褐色で黒褐色の縦班がある。下面は白く、  
<sup>むね こっかつしよく じゅうはん</sup>胸に黒褐色の縦班がある。

鳴き声: さえずりは空高く飛びながら、ピークピークチュクチーチーなど。  
<sup>ちな</sup>地鳴きはビュルビュルと飛ぶときに鳴くことが多い。



No.52 ヒヨドリ

(ヒヨドリ科)

大きさ: 約<sup>やく</sup>27.5cm



鳴き声: ピーヨ、ピーヨと<sup>さわ</sup>騒がしく鳴く。

ピーピョロピョロピと<sup>ふくざつ</sup>複雑に鳴くこともある。

<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか: 一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>まちなか</sup>街中から<sup>たばた</sup>田畑、<sup>はやし</sup>林まで、<sup>いろいろ</sup>色々な<sup>ばしょ</sup>場所でよく見られる。秋には<sup>てがぬまじょうくう</sup>手賀沼上空で<sup>いどう</sup>移動の<sup>む</sup>群れも見られる。

どんな<sup>すがた</sup>姿、<sup>かたち</sup>形か: <sup>ぜんたい</sup>全体に<sup>はいいろ</sup>灰色っぽい<sup>かつしよく</sup>褐色で、<sup>あたま</sup>頭は<sup>はいいろ</sup>青っぽい<sup>みみ</sup>灰色。耳の部分<sup>ぶぶん</sup>は<sup>ちゃいろ</sup>茶色。

その他: <sup>た</sup>花の<sup>はな</sup>蜜が<sup>みつ</sup>好きで、<sup>ず</sup>桜の<sup>さくら</sup>花によく<sup>はな</sup>集<sup>あつ</sup>まる。<sup>えさだい</sup>餌台に<sup>くだもの</sup>果物をおくとよく<sup>た</sup>食べにくる。



No.53 ホオジロ

(ホオジロ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約17cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>てがぬま</sup>手賀沼の<sup>はらくさち</sup>ヨシ原、草地  
などでよく見られる。オスは草や木に止まっ  
て<sup>くさきと</sup>囀るので見つけやすい。地面で草の実  
<sup>さえず</sup>を<sup>じめん</sup>食べる<sup>くさみ</sup>姿も<sup>たすがた</sup>見られる。

<sup>すがた</sup>どんな<sup>かたち</sup>姿、<sup>かお</sup>形か:オスの<sup>しろくろ</sup>顔は<sup>もよう</sup>白黒の模様  
がはっきりしていて、<sup>びはん</sup>眉班と<sup>ほお</sup>頬が白い。メス  
は<sup>かお</sup>顔の色が<sup>ちゃいろ</sup>うすく、茶色に見える。

<sup>じな</sup>鳴き声:地鳴きはチチチと続けて鳴き、  
さえずりはチョッピーチュチュリと鳴く。

<sup>た</sup>その他:<sup>ちばけん</sup>千葉県の<sup>けんちょう</sup>県鳥。



No.54 ホシハジロ

(カモ科)

大きさ: 42~58 cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ころ</sup>頃まで見られる。

どこで見られるか:<sup>てがぬま</sup>手賀沼の<sup>しもぬま</sup>下沼(東側)  
<sup>かみぬま</sup>でよく見られるが、<sup>にしがわ</sup>上沼(西側)、<sup>てががわ</sup>手賀川で  
<sup>とねがわ</sup>も少しが、<sup>む</sup>利根川では群れが見られる。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か:<sup>あたま</sup>オスは頭がレンガ色で  
<sup>め</sup>目が赤い。<sup>からだぜんたい</sup>体全体がうす灰色で、<sup>はいいろ</sup>胸と<sup>むね</sup>お尻  
<sup>ぶぶん</sup>部分が黒い。<sup>くちばし</sup>嘴は黒く、<sup>ちゅうおう</sup>中央が<sup>はいいろ</sup>灰色。

<sup>あたま</sup>メスは頭から<sup>むね</sup>胸が茶色で目の<sup>まわ</sup>回りが白  
<sup>からだぜんたい</sup>い。体全体がこい灰色で<sup>はいいろ</sup>褐色の<sup>かっしょく</sup>まだら  
<sup>もよう</sup>模様がある。<sup>め</sup>目は黒っぽい。

鳴き声:クルッ、クルッという声で鳴く。



No.55 ホトトギス

(カッコウ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約25cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>なつどり</sup>夏鳥で、5月から9月頃<sup>ころ</sup>まで鳴き声<sup>き</sup>が聞かれる。

どこで見られるか:<sup>て</sup>手賀沼周辺<sup>がぬましゅうへん</sup>や街中<sup>まちなか</sup>でも5~7月頃<sup>ころ</sup>に鳴き声<sup>き</sup>を聞くが、姿<sup>すがた</sup>はほとんど見られない。ごくまれに、移動時期<sup>いどうじき</sup>に公園<sup>こうえん</sup>の桜<sup>さくら</sup>の木などで見られることがある。

どんな姿<sup>すがた</sup>、形<sup>かたち</sup>か:<sup>かめん</sup>カッコウより小さく、下面の横斑<sup>おうはん</sup>が太<sup>ふと</sup>くてあらい。姿<sup>すがた</sup>・形<sup>かたち</sup>より鳴き声<sup>きこえ</sup>で違い<sup>ちが</sup>がわかる。

その他:<sup>た</sup>主にウグイス<sup>おも</sup>に托卵<sup>たくらん</sup>する。

鳴き声:キョッキョツと鳴き、「トッキョッキョカキョク」の

<sup>よる</sup>ように聞こえる。夜<sup>と</sup>に飛びながら鳴くことが多い。



No.56 マガモ

(カモ科)

大きさ: 40~66 cm



いつ頃見られるか:<sup>ごろ</sup>冬鳥で、<sup>ふゆどり</sup>11月から3月頃まで見られる。

どこで見られるか:<sup>てがぬま</sup>手賀沼の<sup>しもぬま</sup>下沼(東側)でよく見られ、<sup>とねがわ</sup>利根川では<sup>む</sup>大きな群れで見られる。

どんな姿、形か:<sup>すがた</sup>オスは<sup>かたち</sup>頭が<sup>あたま</sup>光るような<sup>ひか</sup>みどりいろ<sup>くちばし</sup>で、<sup>きいろ</sup>嘴は<sup>くび</sup>黄色。首に<sup>くびわ</sup>白い首輪のような<sup>もよう</sup>模様がある。体は<sup>からだ</sup>ほぼ<sup>はいいろ</sup>灰色で<sup>むね</sup>胸は<sup>いろ</sup>茶いろ<sup>あし</sup>、<sup>だいだいろ</sup>足は<sup>ぜんたい</sup>橙色。メスは<sup>かっしょく</sup>全体が<sup>くちばし</sup>褐色で、<sup>だいだいろ</sup>嘴は<sup>じょうぶ</sup>橙色で<sup>じょうぶ</sup>上部が黒い。

鳴き声:<sup>ひく</sup>低い声でグァーとかクワツと鳴く。



No.57 ミコアイサ

(カモ科)

大きさ: 35~44 cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ころ</sup>頃まで見られる。

どこで見られるか:<sup>てがぬま</sup>手賀沼と<sup>てががわ</sup>手賀川で見ら  
<sup>かず</sup>れるが、数は少ない。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か:<sup>ぜんしん</sup>オスは全身が白く、<sup>あたま</sup>頭の  
<sup>うし</sup>後ろには白くて<sup>みじか</sup>短い<sup>かんむり</sup>冠のような<sup>はね</sup>羽があ  
<sup>あたま</sup>り、<sup>め</sup>ぼさぼさ<sup>まわ</sup>頭に見える。目の<sup>せ</sup>周り<sup>あたま</sup>と背は黒  
<sup>あたま</sup>い。メスは、<sup>かつしよく</sup>頭は赤い<sup>のど</sup>褐色で<sup>くび</sup>喉から首は白  
<sup>からだ</sup>く、<sup>はいいろ</sup>体は灰色。

鳴き声:キイツ、キイツとかクツツと鳴く。

<sup>た</sup>その他:<sup>かお</sup>オスは顔が白く、<sup>め</sup>目の<sup>まわ</sup>周りが黒い  
ので、<sup>よ</sup>パンダガモと呼ばれる。



No.58 ミサゴ

(ミサゴ科)

大きさ: オス約<sup>やく</sup>54、メス約<sup>やく</sup>64 cm



いつ頃見られるか: ほぼ一年を通して見られるが、夏はあまり見られない。

どこで見られるか: 手賀沼で見られ、杭の<sup>てがぬま</sup>上に休んだり、魚<sup>くい</sup>を食べる姿や上空を飛<sup>じょう</sup>びながら獲物<sup>やす</sup>をさがし、水<sup>さかな</sup>に飛びこんで捕<sup>た</sup>まえる姿<sup>すがた</sup>が見られることもある。数は少<sup>じょうくう</sup>ないが、大きな鳥<sup>と</sup>で目立<sup>つか</sup>つ。

どんな姿、形か: 頭<sup>すがた</sup>から首<sup>かたち</sup>の後ろ<sup>あたま</sup>、下面<sup>くび</sup>は白<sup>うし</sup>く、上面<sup>かめん</sup>は黒褐色<sup>じょうめん</sup>で、目の前後<sup>こっかっしょく</sup>を通<sup>め</sup>る黒<sup>ぜんご</sup>い太<sup>とお</sup>い線<sup>ふと</sup>模様<sup>せんもよう</sup>がある。

その他: 魚<sup>た</sup>を主<sup>さかな</sup>に食<sup>おも</sup>べる。

鳴き声: ピョッピョッピョッ、ピッウィークなどと鳴く。





No.59 ムクドリ

(ムクドリ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約24cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>まちなか</sup>街中から <sup>たはた</sup>田畑、<sup>はやし</sup>林、<sup>くさち</sup>草地まで <sup>いろいろ</sup>色々な <sup>ところ</sup>所で見られるが、<sup>みずべ</sup>水辺ではあまり見られない。

どんな姿、形か: <sup>すがた</sup>全体に <sup>かたち</sup>黒っぽいが、<sup>ぜんたい</sup>顔に <sup>かお</sup>白い羽があり、<sup>はね</sup>オレンジ色の <sup>くちばし</sup>嘴と <sup>あし</sup>足が目立つ。飛ぶ姿は <sup>めだ</sup>翼を開いた形が <sup>と</sup>三角 <sup>すがた</sup> <sup>つばさ</sup> <sup>ひら</sup> <sup>がた</sup> <sup>さんかく</sup> <sup>じょうぎ</sup> <sup>めだ</sup> <sup>こし</sup> <sup>めだ</sup> 定規のように見え、腰の白さが目立つ。

鳴き声: キュルキュル、リャーと <sup>さわが</sup>騒しく鳴き、  
<sup>とき</sup>けいかいする時はギャーと鳴く。

その他: <sup>た</sup>夏から秋、<sup>えきまえ</sup>駅前 <sup>でんせん</sup>の木や電線に <sup>む</sup>群れで止まり、<sup>と</sup>ねぐら <sup>しゅうだん</sup>(集団でねる場所) <sup>ばしょ</sup>にする  
ことがある。



No.60 メジロ

(メジロ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約11cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: <sup>まちなか</sup>街中の庭木、<sup>よし</sup>ヨシ原、<sup>はやし</sup>林、<sup>こうえん</sup>公園など、<sup>いろいろ</sup>色々な所で見られる。<sup>さくら</sup>桜の花の蜜をなめたり、<sup>とき</sup>時には<sup>じゆく</sup>熟した<sup>かき</sup>柿を<sup>た</sup>食べる<sup>すがた</sup>姿も見られる。

どんな姿、形か: <sup>すがた</sup>上面が<sup>かたち</sup>黄緑色(<sup>じょうめん</sup>ウグイス<sup>きみどりいろ</sup>色)で、<sup>いろ</sup>下面是<sup>かめん</sup>白っぽく<sup>め</sup>目の<sup>まわ</sup>周りが<sup>す</sup>白い。

その他: <sup>た</sup>果物や<sup>くだもの</sup>花の<sup>はな</sup>蜜<sup>みつ</sup>などが<sup>す</sup>大好き。

鳴き声: さえずりは、チーチュル、チロルル、チュル  
チーと<sup>ちょうし</sup>調子よく鳴く。<sup>ぢな</sup>地鳴きはチー、チューなど。



No.61 モズ

(モズ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約20cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:<sup>はら</sup>ヨシ原、<sup>くさち</sup>草地、<sup>まわり</sup>林の周り、<sup>かわはら</sup>河原、<sup>やち</sup>谷地など、<sup>いろいろ</sup>色々な所で見られ、<sup>てが</sup>手賀<sup>ぬまゆうほどう</sup>沼遊歩道でも、<sup>ひく</sup>低い木や<sup>でんせん</sup>電線に止まり、<sup>と</sup>尾<sup>お</sup>をハの字をかくように<sup>し</sup>回す<sup>まわ</sup>姿<sup>すがた</sup>が見られる。

<sup>すがた</sup>どんな姿、<sup>かたち</sup>形か:<sup>あたま</sup>頭が大きく、<sup>お</sup>尾は<sup>なが</sup>長め。  
<sup>あたま</sup>オスは<sup>ちやいろ</sup>頭が茶色で<sup>せ</sup>背が<sup>はいいろ</sup>灰色、<sup>かめん</sup>下面は<sup>ちやいろ</sup>うす茶色。オスには<sup>め</sup>目の<sup>ぜんご</sup>前後を<sup>とお</sup>通る<sup>せんもよう</sup>黒い線模様があるが、メスにはない。

<sup>しな</sup>鳴き声:地鳴きはキョキョキョ、秋にはキィー  
キィキィキィキュリリと<sup>ところ</sup>高い<sup>と</sup>所に止まって鳴く。  
<sup>ほか</sup>他の鳥の鳴きまねをよくする。

<sup>た</sup>その他:<sup>つか</sup>捕まえたトカゲなどを<sup>えだ</sup>木の枝にさしておくことがある。「はやにえ」という。



No.62 ヤマガラ

(シジュウカラ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約14cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:一年を通して見られるが、秋から冬に見られることが多い。

どこで見られるか: <sup>あか</sup>明るい <sup>ばやし</sup>林や <sup>こうえん</sup>公園、<sup>まちなか</sup>街中の <sup>いけがき</sup>生垣などでも見られることがある。

<sup>すがた</sup>どんな <sup>かたち</sup>姿、<sup>あたま</sup>形か: <sup>ほお</sup>頭が黒く <sup>ほお</sup>頬がクリーム色。 <sup>いろ</sup>背と <sup>せ</sup>下面は <sup>かめん</sup>赤茶色で、 <sup>あかちやいろ</sup>翼は <sup>つばさ</sup>青みがかった <sup>あお</sup>灰色。

<sup>た</sup>その他: <sup>ま</sup>秋冬はシジュウカラなどと混じった <sup>む</sup>群れていることが多い。

鳴き声: さえずりはツツピーツツピーとゆっくりしたテンポで鳴く。 <sup>じな</sup>地鳴きはニーニーなど。



No.63 ユリカモメ

(カモメ科)

大きさ: 37~43 cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ころ</sup>頃まで見られる。

どこで見られるか:<sup>てがぬま</sup>手賀沼や<sup>てががわ</sup>手賀川で見ら  
<sup>てがぬまこうえん</sup>れ、手賀沼公園ではよく見られたが、<sup>さいきん</sup>最近  
は少なくなっている。

どんな姿、形か:<sup>すがた</sup>小型の<sup>かたち</sup>カモメで、<sup>こがた</sup>頭は<sup>あたま</sup>白  
<sup>ほお</sup>く、<sup>てん</sup>頬に<sup>くちばし</sup>黒いはん点があり、<sup>くちばし</sup>嘴と<sup>さき</sup>足が赤く、  
<sup>くちばし</sup>嘴の<sup>さき</sup>先が<sup>ころ</sup>黒い。3月頃になると夏の<sup>はねいろ</sup>羽色  
に<sup>か</sup>変わりはじめ、<sup>あたま</sup>頭が<sup>あつ</sup>黒くなる。

鳴き声: ギューイ、ギイツと鳴く。

その他:<sup>た</sup>公園の<sup>こうえん</sup>池などでも見られ、<sup>いけ</sup>人が<sup>ひと</sup>餌  
<sup>えさ</sup>を<sup>あた</sup>与えると<sup>あつ</sup>集まってくる。



No.64 ルリビタキ

(ヒタキ科)

大きさ: <sup>やく</sup>約14cm



<sup>ごろ</sup>いつ頃見られるか:<sup>ふゆどり</sup>冬鳥で、11月から3月  
<sup>ころ</sup>頃まで見られる。

どこで見られるか:<sup>てが</sup>手賀の<sup>おかこうえん</sup>丘公園、<sup>ごほんまつ</sup>五本松  
<sup>こうえん</sup>公園などの<sup>しぜんこうえん</sup>自然公園や<sup>やち</sup>谷地の<sup>はやしまわ</sup>林回りなど  
で見られる。<sup>まちなか</sup>街中の<sup>こうえん</sup>公園で見られることも  
ある。

どんな<sup>すがた</sup>姿、<sup>かたち</sup>形か:<sup>ひたい</sup>オスは<sup>じょうめん</sup>額から<sup>わき</sup>上面は青  
色、<sup>びはん</sup>白い<sup>かめん</sup>眉斑がある。下面は<sup>わき</sup>白く、<sup>わき</sup>脇は  
<sup>だいだいろ</sup>橙色。メスの<sup>じょうめん</sup>上面は<sup>きみどり</sup>黄緑みの<sup>かつしよく</sup>ある褐色で  
<sup>おばね</sup>尾羽<sup>あお</sup>に青みがある。

その他:<sup>た</sup>とても<sup>うつく</sup>美しい<sup>あお</sup>青い<sup>とり</sup>鳥で<sup>にんき</sup>人気もの。

鳴き声:ヒッ、ヒッ、ヒッとジョウビタキとよく  
に似た声で鳴く。ギュギュギュと鳴くこともある。



作成年月日：2022年 8月18日

改定年月日：2022年 8月19日（第1回改定）

改定年月日：2022年 9月 8日（第2回改定）

写真提供者：池田日出男、菊池幸雄、桑森亮、酒井英治、  
相良直己、清水直樹、関口英治、多葉田五男、  
新堀正則、野口隆也、渡邊俊文

**制作・著作：我孫子野鳥を守る会（美手連デジタル教材PT）**

**2023年5月 公開**

**【ご注意】**

- ・本著作物は、「改正著作権法第35条第1項（学校その他の教育機関における複製等）」  
「著作権法第32条1項（引用）」を遵守し、ご利用ください。
- ・授業の目的以外での複製などの行為、もしくは第三者への譲渡はおやめください。